

令和6年度 羽島市議会 産業建設委員会 活動報告書

1 所管事項

- (1)商工、観光及び労働に関する事項
- (2)農業及び土地改良に関する事項
- (3)道路・水路の管理に関する事項
- (4)道路整備及び河川整備に関する事項
- (5)都市計画に関する事項
- (6)土地区画整理に関する事項
- (7)建築に関する事項
- (8)上・下水道に関する事項

2 重点テーマ

- (1)観光及びインバウンド
- (2)農業（稲作、スマート農業）

3 調査方法、スケジュール

(1)市民から意見聴取

- ・令和7年1月25日 羽島市意見交換会において市民から意見を聴取

(2)先進事例調査

令和6年11月30日～12月1日

神奈川県横須賀市（観光・サイクルツーリズムについて）

茨城県つくば市 農研機構（スマート農業の普及に向けた取り組みについて）

千葉県野田市（農業のブランド化について）

【参考】産業建設委員会の令和6年度行政視察結果報告及び政策提言は市HPからご確認ください。

4 活動のまとめ

(1)観光及びインバウンド【分責：後藤徹副委員長】

重点テーマの1つとして地域経済の活性化と新たな産業振興を目指し、観光及びインバウンド施策の強化を目的に活動を行う。国内外からの観光客誘致を図るべく、羽島市の豊かな自然や文化、歴史的資源を最大限に活用する施策を検討するとともに、地域ブランドの確立に向けた取り組みを推進。その一環として、横須賀市の観光戦略やサイクルツーリズムの取り組み事例を現地で視察の実施。

横須賀市は、港町ならではの歴史・文化資源と海沿いの景観を活かした観光コンテンツ、またサイクリングを通じた地域交流促進など、先進的な観光振興策を展開しており、視察を通じて、その実践的な手法や成果を確認。

羽島市においても、既存の観光資源を効果的に活用すると同時に、新たなサイクルツーリズムルートの整備や、地域内外への情報発信の強化を図ることが重要であると認識。今後の観光分野におけるインバウンド施策のさらなる推進と、地域活性化への提言をしていきたい。

(2)農業（稲作、スマート農業）【分責：同上】

重点テーマの2つ目として、地域農業の持続的発展と先進技術の導入を推進するため、稲作の高度化およびスマート農業の普及に向けた取組みを重点項目として活動。まず、野田市における農業のブランド化に関する視察を実施。地元製品の付加価値向上やマーケティング戦略、流通ネットワークの構築など、ブランド確立に向けた先進事例を確認。また、つくば市におけるスマート農業普及の取組みを、農研機構の実例を通じて視察。先進のICT技術やセンサー、ドローン等を活用した効率的な生産体制等について確認。

さらに市民との意見交換会を開催し、農業従事者や市民から、今後の羽島市における農業の現状と課題について等多岐にわたる意見交換を実施しました。この中から今後の農業施策における市への提言等へと結び付けていきたい。

5 各委員の意見

★粟津明委員長★

観光及びインバウンドの取組みについて

羽島市は豊かな自然、文化、歴史的資源を活用し、地域経済の活性化と新たな産業振興を目指しています。

特に、横須賀市の視察を通じて得られた手法や成果を羽島市に取り入れることは、効果的な観光戦略の構築に不可欠です。

羽島市は平坦な地形が多く、サイクルツーリズムの導入は自転車愛好者にとって魅力的なルートを提供できます。

この取組みで観光客の滞在時間と消費額の増加を目指し、PR戦略や情報発信の強化において高い効果を上げることが重要ではないかと考えます。

農業（稲作、スマート農業）の取組みについて

稲作の高度化とスマート農業は、持続可能な農業と地域の発展にとって重要な位置づけとなります。野田市での農業ブランド化の視察は意義深く、羽島市でも地元製品の付加価値向上とマーケティング戦略を積極的に取り入れるべきです。

地域ブランドの確立は、地元産品の認知度と信頼性を高め、農家の収入向上に繋がります。

また、つくば市でのスマート農業視察では、最新のICT技術、センサー、ドローンの活用が、人手不足や高齢化といった現代農業の課題に対処し、持続可能な農業経営を可能としていくのではないのでしょうか。

市民との意見交換会での現場の声を基に、具体的な施策を構築することが重要です。

総括

これらの取り組みを通じ、羽島市の観光及びインバウンド施策、農業施策は、地域の持続可能な発展に寄与すると考えます。

今後も各委員と調査や研究を続け、具体的な成果に結びつける施策を推進してまいります。

★後藤徹 副委員長★

本年度は、観光・インバウンドと、農業（稲作、スマート農業）を重点テーマとして活動しました。観光及びインバウンド分野では、国内外からの観光客誘致を通じた地域経済の活性化を目指し、横須賀市における観光施策とサイクルツーリズムの取り組みを視察しました。

横須賀市は、港町ならではの歴史文化資源や海沿いの美しい景観を活用し、サイクリングルートの整備や多彩な観光コンテンツの充実に成功しており、これらの先進的事例は羽島市における観光振興やインバウンド施策の参考になると考えられます。

一方、稲作及びスマート農業分野では、野田市における農業のブランド化事例を視察し、地元産品の付加価値向上と販路拡大の取り組みを学びました。

加えて、つくば市で農研機構が実施するスマート農業の普及活動に触れ、ICT技術など先進技術を活用、導入の事例を確認しました。

これにより、従来の稲作の伝統を守りながらも、技術革新による生産性の向上、労働負担の軽減、環境負荷の低減を実現するための具体的手法について学びました。

さらに農業従事者や市民との意見交換会も開催し、現場のニーズや課題、今後の支援策について、地域全体での農業の魅力向上と、スマート農業技術の普

及による持続可能な農業経営の実現に向けた取り組み等、多岐にわたる意見交換ができました。

引き続き、各関係機関や市民との連携を深めながら、地域全体の魅力向上と経済活性化を目指してまいります。

★佐藤健 委員★

1 観光について

インバウンド分野につきましては、受け入れ側の言葉の力が重要になるものと思われまます。日本語が理解できる海外からの観光客以外は、日本語がわからない状態でお越しになる以上、その方にもわかる言葉、あるいはコミュニケーションの手法を採らねばなりません。従って、対応する側としては、英語などの外国語のスキルが必要となります。日本語がある程度理解できる観光客に対しても、難しい日本語ではなく、「やさしい日本語」でなければ理解されない可能性があります。言語教育の世界では、教える言葉で教える直説法(例えば日本語を解さない方々に対し、日本語で日本語を教えるもの)と、教える言葉以外を用いて教える間接法とに分かれています。観光にあてはめると前者の発想と後者の手法を両面から活用することで、より明確に物事を伝えることができるものです。

観光とまちづくりの関係では、全市的に一律に観光を同様のグラデーションでレベルアップしていくことはなかなか困難であることから、市域における重点エリアを数か所指定し、濃淡をつけた観光の強化が肝要と考えられます。

道路標識については、海外からの観光客にはわかりにくいものも多くあり、より分かりやすい道路標識の在り方についても検討が必要になってきています。海外からの観光客に関連し、誤解から起こる事故とみられる事案も他市では発生しました。そのような事態の発生を踏まえ、海外の方にはわかりにくい道路標識については、別途英語の表記を行うなど、注意喚起の取り組みは必要かもしれません。

また、観光喚起の方策として、本市ならではの特色である河川と水路の活用が重要であると考えられます。横須賀市のように、歩きやすくわかりやすい明るい街並みをつくるのが大事です。

サイクリングについては、観光につながることはもちろんですが、普段からの日常的な利便性の向上や、災害対策につながることも重要です。オランダでは、サイクリングが当たり前になっています。サイクリングを通じて、CO₂の排出を減らすこともできます。ガソリンを消費しないため、災害対策にもなり、このことは、とりわけ地震発生時の液状化が不安視されている昨今、重要性をさらに増しております。

2 農業について

農業のブランド化については、意見交換会でもお話ししましたが、羽島市産の魅力あるお米を用いたおにぎりを新幹線の停車時間で配布する取り組みや、ホーム上で、直販店を野菜のお店を開く取り組みが考えられます。皆さんと意見交換することによって、このような取り組みを思いつくことができました。貴重な場であり、意見交換は今後も必要に応じて実施していただきたいと思います。

スマート農業については、視察を通じて、コスト的な課題がかなりあると認識しました。農業者側としては、ローコストなサービスの利用に向けた模索が大切です。

★後藤國弘 委員★

令和6年度の羽島市議会 産業建設委員会の重点テーマとして 観光及びインバウンド、農業（稲作・スマート農業）について、委員として調査研究をしてきました。観光お飛びインバウンドについては神奈川県横須賀市を視察、近年話題のサイクルツーリズムにおいて、多様なサイクリングコースを用意し都会からの愛好者を呼び込んでいました。本市においてもこうした自転車を活用した取り組みが関係人口の増加につながる手段であると考えられます。

農業に関しては つくば市の先進的な農業技術を視察、これからの農業の在り方が参考となりました。野田市の視察においては、野田市農作物ブランド化推進協議会において玄米黒酢を活用した稲作のブランド化、販売促進については非常に参考になりました。また、市民との意見交換会においては、国の米政策の問題点と羽島市の稲作の現状について活発な意見交換がなされました。

意見交換会で出てきた問題点について 農繁期における人手不足・オペレーターの育成 圃場整備と農地の集約化などの問題に取り組んでいくべきと考えます。

儲かる農業の実現に向けて取り組んでいく考えです。

★藤川貴雄 委員★

産業建設委員会の所管事項の中から、特に、「商工、観光及び労働に関する事項」、「農業及び土地改良に関する事項」、「都市計画に関する事項」に重点をおいて活動しました。

委員会の活動としては、他の自治体の先進的な取り組みを視察したり、国の研究機関に赴き最新の農業技術を学んだり、政策研究に努めることができました。さらには、市民との意見交換会を通して羽島市の農業の現状や課題についてお聞きし、今後必要な施策をともに考えることができました。

委員会として活動計画を作成したことで、探求すべきテーマが明確になり、委員会活動がより活発化したことも今年度の成果といえます。

今後も引き続き、委員会活動がより活発になるよう努めてまいります。

★花村 隆 委員★

野田市では田を冬季も湛水することにより、自然環境の保全さらにコウノトリの越冬の一助としていた。コウノトリを野田市のPR活動にも活用して、農業が観光や自然の保護とも結びつけられていて印象的であった。こうした施策を野田市が補助金を支給するなどして積極的に推進する姿勢が素晴らしかった。

横須賀市のサイクルツーリズムの推進は、サイクリング親しめるように、市内各地にサイクルステーションを設置して、どこからでも借りることができ、どこでも返却することができるようにしていた点が、評価できる。委員会で開催した意見交換会では多くの農業者などに参加いただき貴重な意見を多数聞くことができ、大変参考になった。

羽島市の農業生産物が羽島市内に販売場所が限られていることから、市外で販売されている実態の報告があった。市内で市内の生産者の農作物や加工品が販売できる手立てを取ることが必要であると感じた。農業振興政策によりさらに羽島市の農業が発展する可能性がある。昨年からのコメ不足に対してこれ以上コメの生産量を減らすようなことがあってはならない。近年5年間で市内の耕作者が半分以上に激減している。営農組合・担い手の担う役割も大きい、もうすでに手一杯でこれ以上耕作面積を増やすことは容易ではない。家族経営の小規模農家のコメ作りがこれまでの稲作の多くを支えてきた、家族経営の稲作農家に対する何らかの手立てをしなければ、コメの生産「量が需要を賄いきれない、コメ不足の常態化につながりかねない、主食を国内で賄いきれない」という取り返しのつかない事態になることを憂慮する。

最後に研修のテーマとは関係ないが、野田市について一言申し上げたい。それは土地の形が羽島市と瓜二つであったことです。市の両側を大河川に囲まれた二等辺三角形の形であり、羽島市の境川に当たる部分も野田市は運河が通っていて河川となっている。合わせて羽島市の西小藪に当たるような、飛び地も野田市にあり驚きました。地形が似ていることから地震などによって受ける災

害や産業も類似していることが考えられるので、今後引き続き関係を持ったらいいのではないかと感じた。